

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）
分担研究報告書
広域大規模災害時における地域保健支援・受援体制構築に関する研究

支援・受援業務に関する研究

研究分担者 劔 陽子 熊本県御船保健所 所長
服部希世子 熊本県阿蘇保健所 所長
松本珠実 大阪市阿倍野区保健福祉センター
保健副主幹兼保健福祉担当係長

研究要旨：DHEAT の制度化と稼働に向けて DHEAT の活動内容を具体的に示すため、過去の災害に関する研究報告や災害記録、熊本地震及び平成 29 年九州北部豪雨の経験に加え、すでに制定されている九州 3 県の「災害時県内保健所間支援体制」をもとに、大規模災害時に保健所が担う災害対応業務、特にマネジメント機能について災害フェーズ毎に整理を行った。さらにその中で DHEAT の役割を具体的に示し、活動要領案に反映した。

研究協力者：岬美穂（国立病院機構災害医療センター臨床研究部、厚生労働省 DMAT 事務局）、奥田博子（国立保健医療科学院健康危機管理研究部上席主任研究官）、中村泰久（福岡県田川保健所 所長）、中里栄介（佐賀県唐津保健所 所長）、藤田利枝（長崎県県央保健所 所長）、池邊淑子（大分県西部保健所 所長）、緒方敬子（熊本県人吉保健所 所長）、淵上史（熊本市東区役所保健子ども課医療参事）

A. 研究目的

過去の災害に関する研究報告、災害記録および熊本地震及び平成 29 年九州北部豪雨の経験、すでに制定されている熊本・大分・長崎 3 県の「災害時県内保健所間支援体制」をまとめ、保健所が担うべき災害対応業務（特にマネジメント機能）の詳細や、DHEAT の具体的・実証的な活動内容・活動場所の可能性について示す。

B. 研究方法

- ① 大規模災害時保健所機能に関する研究事業報告書（平成 23～28 年度）の概要調査
大規模災害時保健所体制に関する厚生労働科学研究補助金事業および地域保健総合対策事業 8 報告書の概要を時系列的に整理し、さらに本研究に特に関連が深いと考えられる研究・資料等を抽出、整理する。
- ② 過去の災害検証記録から考える DHEAT 活動の可能性
DMAT（平成 17 年発足）が出動した記録のある自然災害を対象とし、行政機関が公表している災害対応の検証報告書、災害対応の経験を受けて行政機関が作成したマニュアル、行政機関の対応をまとめた論文について、フェーズごとまたは項目ご

とに行政側が行ったことを抽出し、それに対応して DHEAT の活動として考えられることをまとめる。

③ 災害時県内保健所間支援体制比較

熊本・長崎・大分三県の災害時県内保健所間支援チーム派遣要領や設置要綱等を比較し、それぞれの特徴を抽出する。

④ 熊本地震および H29 九州北部豪雨の経験から考える DHEAT 活動の可能性

熊本地震時各保健所長による活動記録、各保健所による記録等から、フェーズごとの活動をまとめる。さらに九州北部豪雨時の大分・福岡両県の活動まとめ、九州ブロック保健所長会等の被災県外からの支援活動のまとめ等も参考に、フェーズごと、場所ごとの DHEAT の活動内容について示す。

C. 研究結果と今後の計画

- ① 大規模災害時保健所機能に関する研究事業報告書（平成 23～28 年度）の概要調査
東日本大震災後、大規模災害時における保健所機能強化の必要性が再確認され、その後の研究の中で保健所体制の標準化と支援・受援体制の構築、そのための基盤整備、全国保健所への普及・定着のための取組みが進められてきたことがわかった。
- ② 過去の災害検証記録から考える DHEAT 活動の可能性
避難所の設置と避難所における保健衛生活動、情報共有のための関係者が集まる会議体の設置、情報収集とニーズ分析など、保健所や行政がフェーズごとに何をしたか、活動内容詳細については、大体共通して抽出できるものがあつた。そして、それらの活動は都道府県本庁一保健所一市町村レベルと三層それぞれで、もしくは上の層が下の層を支援する形で展開されていた。この結果を参考に、市町村・保健所・本庁レベルの活動、そしてそれぞれの場所に入る DHEAT の活動のある程度標

準化して示した。

③ 災害時県内保健所間支援体制比較

相互に参考にしている部分があると思われるものの、県内支援だけを念頭においているところ、県外への支援も考えられているところ、研修体制の明記があるところとないところ、活動内容が活動場所により示されているところと、活動時期により示されているところなど様々であった。県庁レベル本部での活動については、3県ともに明記されていなかった。

④ 熊本地震および H29 九州北部豪雨の経験から考える DHEAT 活動の可能性

①～③の結果も参考として、保健所レベル及び保健所の指示のもとに市町村レベルに入った際のフェーズごとの DHEAT 活動内容の例について、都道府県版及び政令市版に分けて作成した。

⑤ 今後の計画

今年度の成果物をさらに具体化し、今後 DHEAT が実際に活動する際に使えるマニュアルやチェックリストなどを作成する。また今年度詳細まで検討することのできなかつた DHEAT 活動の報告・記録、引き継ぎ、終結及び装備の詳細等についても検討する。

D. 考察と今後の課題

今年度は、主に過去の経験を詳細に振り返ることで、DHEAT に求められる活動はフェーズごとに異なっていくこと、また市町村レベル、保健所レベル、本庁本部レベルと3層に渡って入り込むことが求められるだろうこと、都道府県と政令市とでは体制が異なるため、DHEAT の活動も都道府県に入るのか、政令市に入るのかで異なってくる部分もあることなどが明らかになった。今年度、保健所レベルや市町村レベルに入った DHEAT の活動内容例については示すことができたが、本部レベルに入る DHEAT の活動例は詳細には示すことができなかったため、今後本部レベルに入る DHEAT 活動も示す必要がある。また実際に活動する際に役立つマニュアルといった形での提示も必要であり、平成30年度はそれらに取り組む予定である。

E. 健康危険情報

(該当なし)

F. 研究発表

1. 論文発表(筆頭著者のもののみ)
(研究代表者による総括研究報告に掲載)
2. 学会発表(筆頭演者のもののみ)
(研究代表者による総括研究報告に掲載)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(該当なし)